

2024年3月期 第2四半期決算説明会

1. 第2四半期決算の概要(連結)
2. 通期の業績見通し
3. 当社の経営戦略

2023年11月10日

日本光電工業株式会社

証券コード : 6849

<https://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics



NIHON KOHDEN

1

第2四半期決算の概要(連結)

1) 当第2四半期の決算概要

	前第2四半期 累計 (2022/9)	当第2四半期 累計(2023/9)			(単位: 百万円、単位未満切捨て)
		期初予想	実績	対前年同期 増減率(%)	
売上高	94,349	98,500	103,536	9.7	
国内売上高	62,584	-	65,708	5.0	
海外売上高	31,764	-	37,828	19.1	為替影響除く: +10% (為替・決算期変更影響※除く: +5%)
売上総利益 (売上総利益率)	47,596 50.4%	-	52,005 50.2%	9.3	自社品 2022/9 2023/9 売上高比率: 71.3% → 72.9%
営業利益 (営業利益率)	7,217 7.6%	6,000 6.1%	7,491 7.2%	3.8	販管費: 403億円 → 445億円 販管費率: 42.8% → 43.0%
経常利益	13,019	6,000	12,546	△ 3.6	為替差益 5,531百万円 → 4,866百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,541	4,000	7,997	△ 6.4	

平均レート	(2022/9)	(2023/9)
1米ドル	129.7円	139.6円
1ユーロ	138.4円	153.3円

※米国子会社再編に伴い、デフィブテック社の決算日を12月31日から3月31日に変更しています。当第2四半期連結累計期間は、2023年1月1日から2023年9月30日までの9ヵ月決算を連結しています。

NIHON KOHDEN

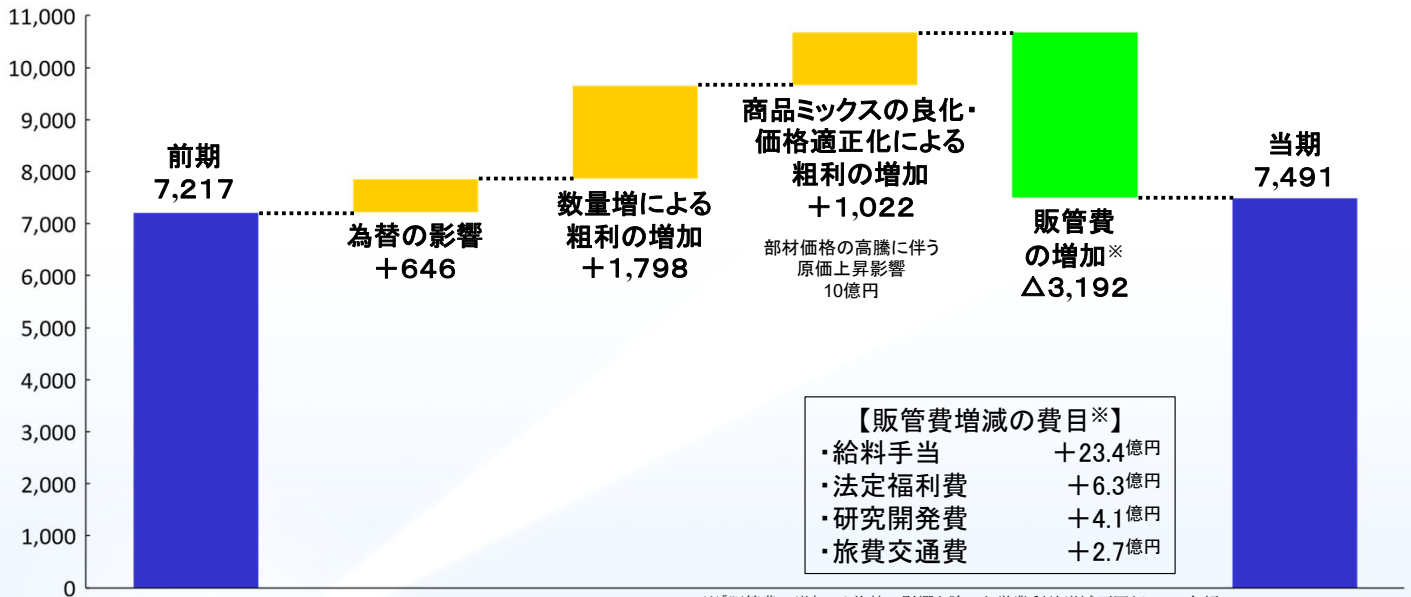
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

2

- 売上高は、9.7%増の1,035億円となりました。
国内売上高は5%増の657億円、海外売上高は19.1%増の378億円、
現地通貨ベースでは、10%の増加となりました。
為替とデフィブテック社の決算期変更の影響を除くと、5%の増加となりました。
- 期初予想に対しては、国内では消耗品・サービス事業が想定を上回って推移し、
海外においても為替が円安に推移したことから、全体で50億円上回りました。
- 部材価格の上昇を受けた価格適正化の取り組みも増収に寄与しました。
- 営業利益は3.8%増の74億円、経常利益は為替差益の減少により、
3.6%減の125億円、純利益は6.4%減の79億円となりました。

2) 営業利益増減の要因分析

(単位: 百万円)



※「販管費の増加」は為替の影響を除いた営業利益増減要因としての金額、
「販管費増減の費目」は円建ての販売費及び一般管理費のうち主な増減金額を表しています。

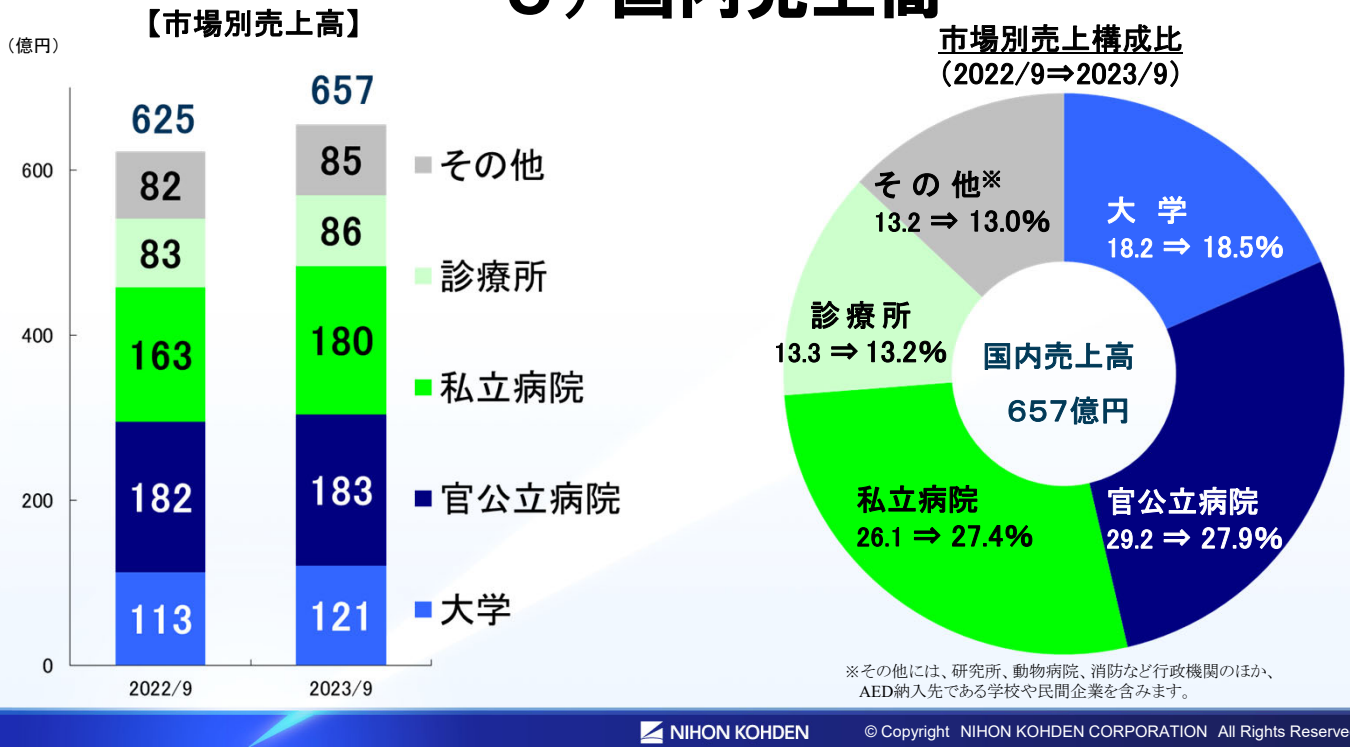
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3

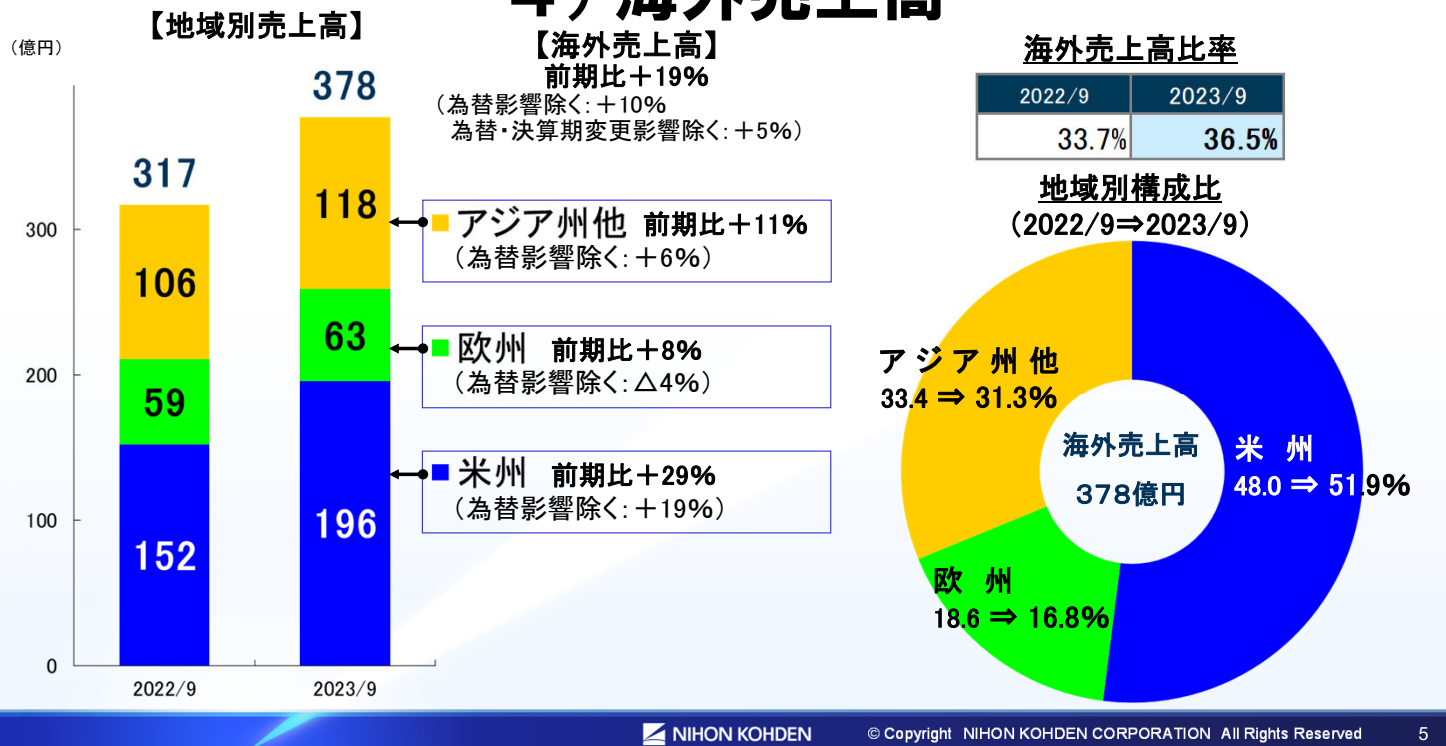
- 営業利益が、前期の72億円から74億円に増加した要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、6億円のプラス要因となりました。
- 数量増による粗利の増加は、17億円となりました。
- 商品ミックスの良化や価格適正化による粗利の増加は、10億円となりました。部材価格の高騰に伴う原価上昇影響は10億円程度ありましたが、相殺することが出来ました。
- 販管費につきましては、人員の増強や研究開発投資等により、31億円のマイナス要因となりました。

3) 国内売上高



- 国内売上高は、32億円増の657億円となりました。
- 医療機関における検査・手術件数が増加傾向にある中、消耗品・サービス事業の強化に注力した結果、全ての市場で売上を伸ばすことが出来ました。
- 市場別では、新築移転に伴う大口商談の受注もあり、大学、私立病院市場が好調に推移しました。官公立病院、診療所市場も堅調でした。

4) 海外売上高



- 海外売上高は、61億円増の378億円となりました。
- 米国子会社再編に伴うデフィブテック社の決算期変更の影響に加え、中国での感染再拡大に伴う生体情報モニタ等の整備もあり、二桁成長となりました。
- 米州は44億円増の196億円、現地通貨ベースでは19%増加しました。米国が、治療機器、生体情報モニタを中心に二桁成長となりました。中南米は、現地通貨ベースでは前年同期を下回りましたが、円ベースでは増収となりました。メキシコは好調だったものの、ブラジルが低調に推移しました。
- 欧州は4億円増の63億円、現地通貨ベースでは4%減少しました。イギリス、オランダは好調でしたが、ドイツが好調だった前年同期を下回りました。
- アジア州他は12億円増の118億円、現地通貨ベースでは6%増加しました。中国に加え、中近東、ベトナムが好調に推移しました。

5) 商品群別売上高

	前第2四半期 累計(2022/9)	当第2四半期 累計(2023/9)	増減率(%)
生体計測機器	19,896 (43%)	22,329 (45%)	12.2
生体情報モニタ	35,964 (62%)	37,989 (62%)	5.6
治療機器	20,689 (45%)	25,367 (43%)	22.6
その他	17,799 (43%)	17,849 (44%)	0.3
売上高合計	94,349 (50%)	103,536 (50%)	9.7

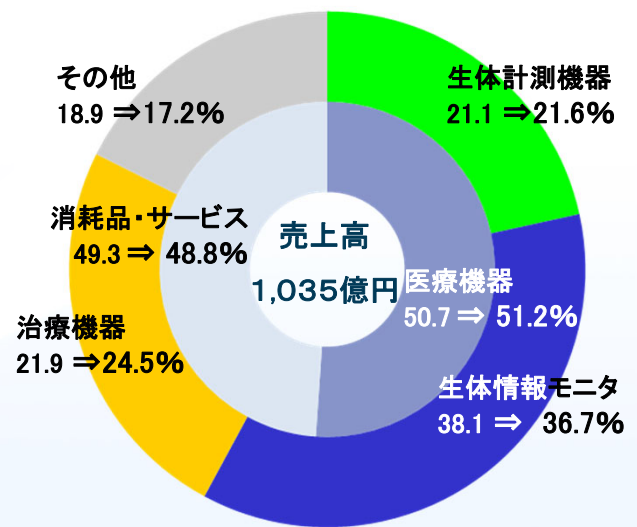
(ご参考)

医療機器	47,840 (51%)	52,989 (51%)	10.8
消耗品・サービス	46,508 (50%)	50,547 (50%)	8.7

※ 表の括弧内は、売上総利益率を示しています。

(単位: 百万円)

商品群別売上構成比
(2022/9⇒2023/9)



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。
- 生体計測機器、治療機器が二桁成長となったほか、生体情報モニタも好調に推移しました。その他商品群も前年同期を上回りました。
- 消耗品・サービスは、8.7%増の505億円となりました。医療機関における検査・手術件数が増加傾向にある中、国内、海外ともに、消耗品・サービス事業に注力した結果、売上を伸ばすことが出来ました。
- 商品群別の粗利率は、ご覧のとおりです。

5.1) 生体計測機器

	前第2四半期 累計(2022/9)	当第2四半期 累計(2023/9)	増減率(%)
脳 神 経 系 群	4,081	4,915	20.4
心 電 計 群	2,911	3,156	8.4
心臓カテーテル検査装置群	8,006	8,521	6.4
その他(診断情報システム等)※	4,896	5,736	17.1
生 体 計 測 機 器 合 計	19,896	22,329	12.2
う ち 国 内 売 上 高	15,700	16,924	7.8
う ち 海 外 売 上 高	4,196	5,405	28.8

(単位:百万円)

診断情報システム、脳神経系群が二桁成長。
心臓カテーテル検査装置群、心電計群も
好調に推移。

脳神経系群が全ての地域で好調に推移。
心電計群もアジア州他で好調に推移。

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。



- 「生体計測機器」は、全体で12.2%増の223億円となりました。
- 国内は、7.8%増の169億円となりました。診断情報システムに加え、脳神経系群が二桁成長となりました。新製品の脳波計や筋弛緩モニタリング用の筋電図電極が売上に寄与しました。検査件数の増加に伴い、心臓カテーテル検査装置群、心電計群も好調に推移しました。
- 海外は、28.8%増の54億円となりました。脳神経系群が、底堅い需要により、全ての地域で好調に推移しました。心電計群も中国での売上回復によりアジア州他で好調に推移しました。

5.2) 生体情報モニタ

	前第2四半期 累計(2022/9)	当第2四半期 累計(2023/9)	増減率(%)	(単位:百万円)
生体情報モニタ合計	35,964	37,989	5.6	
うち国内売上高	20,291	21,412	5.5	臨床情報システムが大幅増収。センサ類 など消耗品も好調に推移。送信機、 ベッドサイドモニタは前年同期を下回る。
うち海外売上高	15,672	16,577	5.8	米州が好調に推移。 欧州、アジア州他は前年同期を下回る。



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 「生体情報モニタ」は、全体で5.6%増の379億円となりました。
- 国内は、5.5%増の214億円となりました。大口商談もあり、臨床情報システムの売上が大きく伸びたほか、センサ類など消耗品も好調に推移しました。一方で、送信機、ベッドサイドモニタは前年同期を下回りました。
- 海外は、5.8%増の165億円となりました。米州では、米国、中南米ともに、二桁成長となりました。欧州、アジア州他は前年同期を下回りました。

5.3) 治療機器

	前第2四半期 累計(2022/9)	当第2四半期 累計(2023/9)	増減率(%)	(単位: 百万円)
医 科 向 け 除 細 動 器	3,782	3,690	△ 2.4	【国内】パッドやバッテリーなど消耗品が好調。 【海外】全ての地域で前年同期を下回る。
A E D	9,159	14,174	54.8	【国内】画面付きAED、消耗品が好調に推移。 【海外】デフィブテック社の決算期変更の影響を除いても好調に推移。
ペ ー ス メ ー カ ・ I C D	1,165	1,258	8.0	
人 工 呼 吸 器	2,934	2,597	△ 11.5	【国内】需要一服により、前年同期を下回る。 【海外】欧州、アジア州他で減収。米州では、 マスク型人工呼吸器が好調に推移し、増収。
そ の 他	3,647	3,646	△ 0.0	
治 療 機 器 合 計	20,689	25,367	22.6	
う ち 国 内 売 上 高	12,252	12,981	6.0	
う ち 海 外 売 上 高	8,436	12,385	46.8	
(参 考) A E D 販 売 台 数	56,100台	81,700台	45.6	
う ち 国 内 販 売 台 数	25,200台	24,200台	△ 4.0	



除細動器
EMS-1052



オートショック
AED-3250



心臓ペースメーカ
Zenex MRI



人工呼吸器
NKV-550

NEW!



人工呼吸器
NKV-440



人工呼吸器
NKV-330

NEW!



自動心臓マッサージ
装置 ARM XR ACC

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

9

- 「治療機器」は、全体で22.6%増の253億円となりました。
国内は6%増の129億円、海外は46.8%増の123億円となりました。
- 医科向け除細動器は、国内でパッドやバッテリーなど消耗品が好調に推移した一方、海外が全ての地域で前年同期を下回ったことから、2.4%減の36億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で81,700台、売上は54.8%増の141億円となりました。
国内では、画面付きAEDや消耗品が好調に推移しました。海外では、決算期変更の影響を除いても、底堅い需要に支えられ、好調に推移しました。
- 人工呼吸器は、11.5%減の25億円となりました。国内は、コロナ関連需要の一服により、前年同期を下回りました。海外は、欧州、アジア州他で減収となりましたが、米州では、マスク型人工呼吸器が好調に推移し、増収となりました。

5.4) その他

	前第2四半期 累計(2022/9)	当第2四半期 累計(2023/9)	増減率(%)
検体検査装置	5,800	6,122	5.6
画像診断装置他※	11,998	11,727	△ 2.3
その他合計	17,799	17,849	0.3
うち国内売上高	14,339	14,389	0.3
うち海外売上高	3,459	3,459	0.0

(単位:百万円)

検体検査装置の試薬、医療機器の保守サービスが好調に推移。画像診断装置は減収。

血球計数器・試薬は、欧州、中南米が減収の一方、アジア州他が前年同期を上回る。

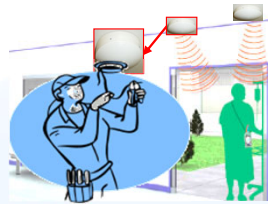
※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。



全自動血球計数器
MEK-9200



全自動血球計数・
赤血球沈降速度測定装置
MEK-1305



設置工事・保守サービス

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

10

- 「その他商品群」におきましては、全体で0.3%増の178億円となりました。
- 国内は、0.3%増の143億円となりました。検体検査装置の試薬や医療機器の保守サービスが好調に推移した一方で、画像診断装置は減収となりました。
- 海外は、前年同期並みの34億円となりました。血球計数器・試薬は、欧州、中南米で減収となった一方、アジア州他では前年同期を上回りました。

6) 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2023/3	当第2四半期末 2023/9	増減額		前期末 2023/3	当第2四半期末 2023/9	増減額
流動資産	172,500	174,522	2,022	流動負債	46,568	44,161	△ 2,407
棚卸資産	58,790	61,836	3,046	有利子負債	403	317	△ 86
有形固定資産	24,446	25,038	592	固定負債	2,555	2,523	△ 32
無形固定資産	4,221	4,518	296	純資産	167,604	174,305	6,701
投資その他資産	15,560	16,910	1,349				
資産合計	216,728	220,990	4,261	負債・純資産合計	216,728	220,990	4,261
棚卸資産回転月数	7.0ヵ月	7.0ヵ月		自己資本比率	77.3%	78.9%	

【棚卸資産の増加の理由】

製品在庫+28億円:

- ・円安の影響
- ・米国で生体情報モニタ、AEDの納品に備え在庫確保

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

11

- 総資産は42億円増加し、2,209億円となりました。
- 棚卸資産につきましては、円安の影響に加え、米国で生体情報モニタやAEDなどの納品に備えた在庫確保に伴い、製品在庫が増加したことから、回転月数は7ヵ月となりました。

7) キャッシュ・フロー

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2022/9)	当第2四半期 累計(2023/9)	増減額
I 営業CF	△ 3,516	9,488	13,005
II 投資CF	△ 2,173	△ 2,874	△ 701
FCF	△ 5,690	6,614	12,304
III 財務CF	△ 5,063	△ 3,553	1,509
換算差額	2,704	2,114	△ 590
増減額	△ 8,048	5,175	13,224
期末残高	52,047	49,163	△ 2,883

	2022/9	2023/9	増減
税金等調整前四半期純利益	12,975	12,545	△429
売上債権の増減額(増加:△)	6,889	9,445	+2,556
棚卸資産の増減額(増加:△)	△5,962	△412	+5,550
法人税等の支払額	△5,518	△2,829	+2,688
自己株式の取得による支出	△1,001	△0	+1,000
配当金の支払額	△4,046	△3,445	+600

- 前期は、部品供給のひっ迫に対応するため、製品在庫、部品在庫を積み増し、棚卸資産が増加したことから、営業キャッシュ・フローがマイナスに転じましたが、当第2四半期はプラスを確保することが出来ました。
- 期末残高は、前期末から51億円増加し、491億円となりました。
- 引き続き、在庫水準を適正化し、キャッシュ・フローの改善に取り組めます。

8) 設備投資と研究開発費

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2022/9)	当第2四半期 累計(2023/9)	2023/3 前期実績	2024/3予想	
				期初	11月8日修正
設備投資額	2,125	2,006	8,294	5,000	5,000
減価償却費	1,711	1,684	3,675	4,100	4,000
研究開発費	2,911	3,327	6,200	7,200	7,200

●2024/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備

インド 試薬新工場の建設 総投資額: 約12億円 < 2023/3: 10億円
2024/3: 2億円

着工: 2022年9月 完成: 2023年9月
稼働開始: 2024年夏予定

PLM/MES※システムの導入 設備投資額: 約30億円 < 2023/3: 3億円
2024/3～2026/3: 27億円

PLM/MES: 2026/3稼働予定

鶴ヶ島新工場の建設 総投資額: 約95億円 < 2023/3: 23億円(土地取得) 着工: 2024年春 完成: 2025年春
2025/3～: 約72億円(建屋・設備等) 稼働開始: 2026年予定

※PLM(Product Life-cycle Management): 製品ライフサイクル管理、MES(Manufacturing Execution System): 製造実行システム。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

13

- 設備投資は20億円、減価償却費は16億円、研究開発費は33億円となりました。
- 通期の設備投資、研究開発費に変更はありません。
減価償却費は、上期の進捗を踏まえ、40億円に見直しました。

2

通期の業績見通し

1) 経営環境

欧米での金融引き締め、地政学リスクの高まりもあり景気先行きは不透明
インフレや人件費の上昇による医療機関の経営への影響を引き続き注視

国内

新興感染症等に対応できる医療提供体制の構築、集中治療体制の強化

- COVID-19の診療報酬上の特例措置、補助金は段階的に縮小、2024年6月の診療報酬改定時に、恒常的な感染症対策として見直し予定

医療機能の分化・連携、地域包括ケアシステムの推進

- 地域医療介護総合確保基金 2023年度1,029億円(医療)

2024年度からの働き方改革に向けた取り組みが本格化、各都道府県は第8次医療計画を策定

海外

欧米諸国

- 看護師不足やインフレに伴い、医療機関の経営悪化が顕在化
- 医療のDXが加速、AI対応の医療機器に関する規制強化の動き

新興国

- 中国における反腐敗運動、各国における国産優遇、保護主義の動きを注視
- 医療機器に関する規制強化への対応

- 欧米における金融引き締めや地政学リスクの高まりもあり、景気の先行きは不透明な状況で推移しています。
- 国内では、5月からの5類感染症移行に伴い、医療提供体制の見直しが進められているほか、医師の働き方改革、地域医療構想の実現に向けた取り組みが本格化しています。
- 海外では、欧米における看護師不足やインフレによる医療機関の経営悪化、中国における反腐敗運動の影響を注視しています。
- 医療機器業界においては、医療の質向上や効率化に向けたソリューション提案がより一層求められる状況です。

2) 通期の業績見通し

	2023/3 前期実績	2024/3予想		増減率 (%)
		期初	11月8日修正	
売上高	206,603	215,000	221,500	7.2
国内売上高	135,734	139,500	142,000	4.6
海外売上高	70,869	75,500	79,500	12.2
売上総利益 (売上総利益率)	105,926 51.3%	109,000 50.7%	112,500 50.8%	6.2
営業利益 (営業利益率)	21,120 10.2%	21,500 10.0%	22,200 10.0%	5.1
経常利益	24,122	21,500	24,000	△ 0.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	17,110	14,500	15,500	△ 9.4
海外売上高比率	34.3%	35.1%	35.9%	
平均レート				
1 米 ド ル	134.6円	125円	139円	
1 ユ ー ロ	141.0円	139円	151円	

(単位:百万円)

← 為替影響除く: +8%

【地域別海外売上高】

	2023/3 前期実績	2024/3予想		増減率 (%)
		期初	11月8日修正	
米 州	36,818	40,200	43,400	17.9
欧 州	12,349	11,700	12,600	2.0
アジア州他	21,701	23,600	23,500	8.3
海 外 計	70,869	75,500	79,500	12.2

(下期)

138円
150円

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

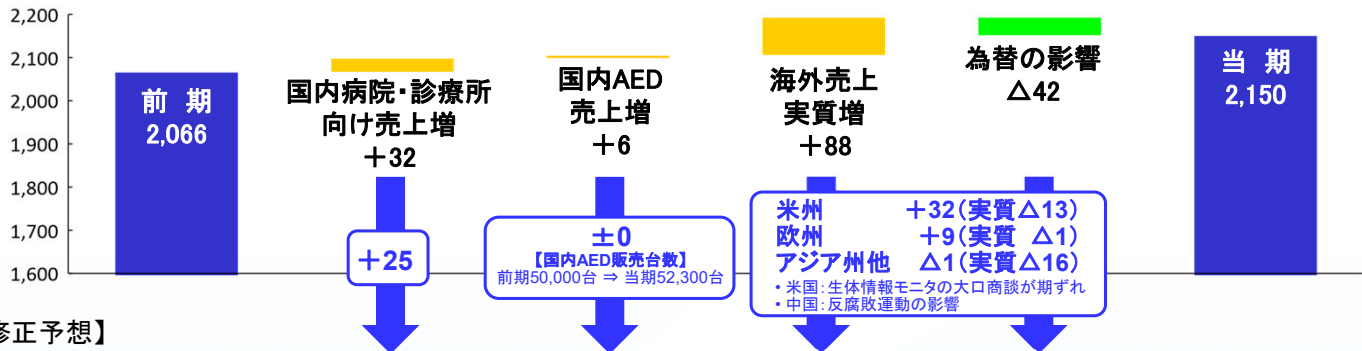
16

- 通期の業績見通しにつきましては、上期に国内が想定を上回って推移したこと、海外は為替が想定よりも円安基調であることから、上方修正しました。
- 連結売上高は前期比7.2%増の2,215億円、国内売上高は4.6%増の1,420億円、海外売上高は12.2%増の795億円、現地通貨ベースでは8%の増加を見込んでいます。
- 国内売上高は前回予想から25億円の増加、海外売上高は40億円増加する見通しです。
- 営業利益につきましては、5.1%増の222億円、前回予想からは7億円の増加を見込んでいます。経常利益、純利益につきましては、ご覧のとおりです。
- 下期の為替の前提につきましては、ドルは138円、ユーロは150円としています。

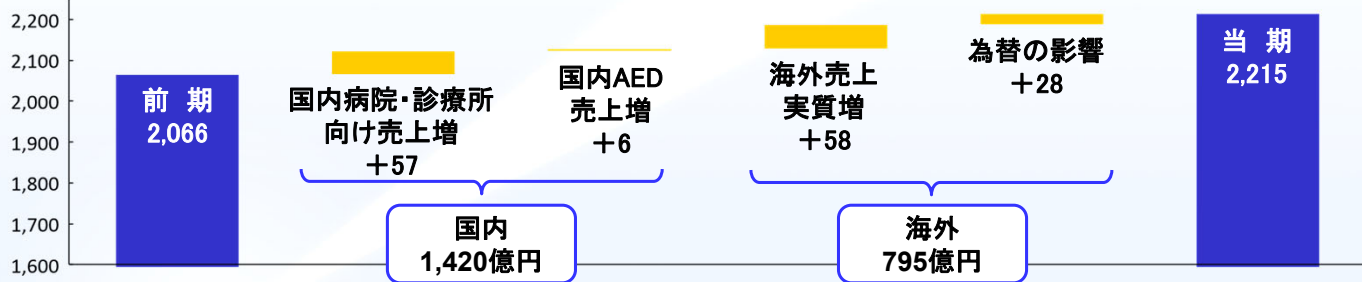
3) 売上見通しの要因分析

(単位: 億円)

【期初予想】



【修正予想】



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

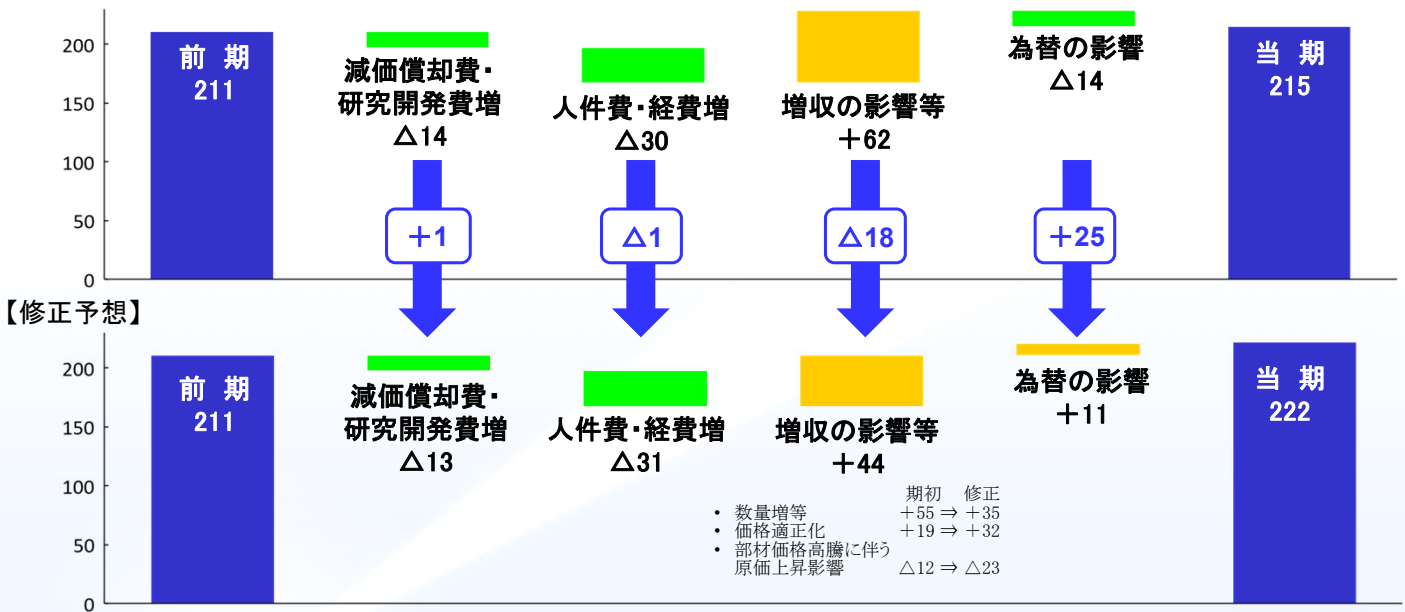
17

- 国内の病院・診療所向けは、上期に消耗品・サービス事業が想定を上回って推移したことから、57億円の増加に見直しました。AEDの通期売上、販売台数に変更はありません。
- 海外売上高は、58億円の実質増、為替は28億円のプラス影響を見込んでいます。前回予想に対して、米州が32億円、欧州が9億円の上振れ、アジア州他が1億円の下方修正を見込んでいます。為替影響を除く実質ベースでは、上期および最近の業績動向をふまえ、米国と中国の見通しを下方修正しました。米国では、生体情報モニタの大口商談の期ずれ、中国では、反腐敗運動の影響を見込んでいます。

4) 営業利益見通しの要因分析

【期初予想】

(単位:億円)



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

18

- 減価償却費・研究開発費は13億円の増加、人件費・経費は31億円の増加に見直しました。
- 増収の影響等は、44億円に見直しました。部品価格の高騰に伴う原価上昇や在庫の評価減の影響が見込まれますが、販売価格の適正化の取り組みにより、収益改善を図ります。
- 為替は11億円のプラス影響と見ています。

[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

	2023/3	2024/3予想			増減率(%)
	前期実績	期初	11月8日修正	構成比(%)	
生体計測機器	43,287	44,100	46,100	20.8	6.5
生体情報モニタ	80,815	83,400	85,500	38.6	5.8
治療機器	44,463	48,200	50,900	23.0	14.5
その他	38,036	39,300	39,000	17.6	2.5
売上高合計	206,603	215,000	221,500	100.0	7.2

(単位:百万円)

(ご参考)

医療機器	108,904	113,000	115,500	52.1	6.1
消耗品・サービス	97,699	102,000	106,000	47.9	8.5

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米ドル	4.0億円	1.4億円
ユーロ	0.6億円	0.2億円

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

19

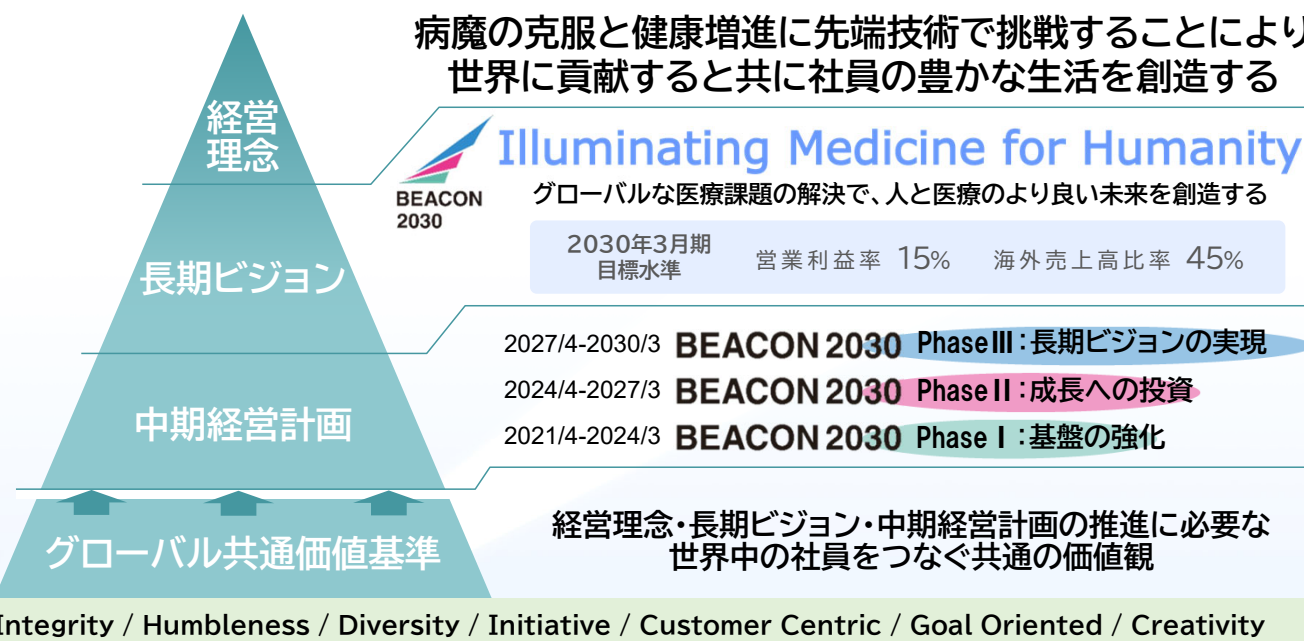
- 商品群別の売上高見通しについては、上期業績をふまえ、修正しました。
- 国内、海外ともに、引き続き、消耗品・サービスの提案強化に取り組めます。
- 為替感応度はご覧のとおりです。

3

当社の経営戦略

長期ビジョンと中期経営計画

病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより
世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する



- 2023年度が最終年度となる3カ年中期経営計画は、長期ビジョンを実現するための第1フェーズです。持続的な成長を支えるための基盤を強化するとともに、2030年に向けて、新たな成長領域、事業モデルの探索を推進しています。

中期経営計画 基本方針

事業と企業活動を通じてサステナビリティを推進

経営

コンプライアンスの徹底とグループガバナンスの一層の強化により、経営基盤を強化する。

事業

既存事業の収益性を改善することで得た原資により、戦略的な先行投資を実施し、新たな成長への種を蒔く。

組織

グローバルSCMの構築とコーポレートの主要機能の強化により、グローバル成長の礎を築く。

※SCM:サプライチェーンマネジメント

- 中期経営計画では、事業と企業活動を通じたサステナビリティの推進を基本方針として、経営、事業、組織の3つの視点から、重要課題に取り組んでいます。

マテリアリティ・KPIの実績開示

中期経営計画3年間累計目標

2年間累計実績

 AED販売台数: 35万台
以上
(国内・海外、3年間累計)

21.9万台
(進捗率 62%)

  
搭載機種販売台数:
85,000台以上
(国内・海外、3年間累計)

64,000台
(進捗率 75%)

 MD Linkage
接続機種数: 7機種以上
接続台数: 5,000台以上
(国内・海外、3年間累計)

6機種
(進捗率 86%)
1,241台
(進捗率 25%)

 環境配慮型製品
売上比率: 20%以上
(3年間累計)

19.1%
(75シリーズ)

CO₂排出量: 2023年度売上高
原単位にて15.2%削減
(ISO 14001認証範囲内のScope 1, 2)

38.7%削減
(2020年度比)

https://www.nihonkohden.co.jp/sustainability/nk_sustainability/materiality.html

【2024/3期の主な取り組み】

上期

- ✓ 人的資本に関する情報開示を拡充
- ✓ サステナビリティ・ディスカッションを完了(グローバル計31回、4,000名以上参加)

下期

- ✓ ディスカッションの内容を次期中期経営計画のマテリアリティに反映予定
- ✓ 環境配慮型製品の開発を推進、規定の整備
- ✓ CO₂排出量のSBT※設定に向けた取り組みを推進

※ SBT (Science Based Target): パリ協定が求める水準と整合した、5年～10年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標。

- サステナビリティの推進においては、マテリアリティとKPIについて、2年間の実績を開示するとともに、人的資本に関する情報開示を拡充しました。
- 昨年10月から全社員を対象に開始したサステナビリティ・ディスカッションは、計31回開催し、4,000名以上の参加がありました。今後は、社員から出た意見を、次期中期経営計画に反映する予定です。
- また、2050年のカーボンニュートラルに向けて、環境配慮型製品の開発やCO₂排出量のScience Based Targetの設定に取り組めます。

ガバナンスの強化・ダイバーシティの推進

ガバナンス体制の推移

2016年6月 監査等委員会設置会社に移行
指名・報酬委員会を設置
2018年6月 独立社外取締役比率:33%
2020年6月 女性社外取締役1名を選任
2021年4月 女性執行役員2名が就任
2023年6月 独立社外取締役比率:36%
✓ 役員報酬制度を見直し中

全ての社員の多様性を尊重

<2022年度実績>

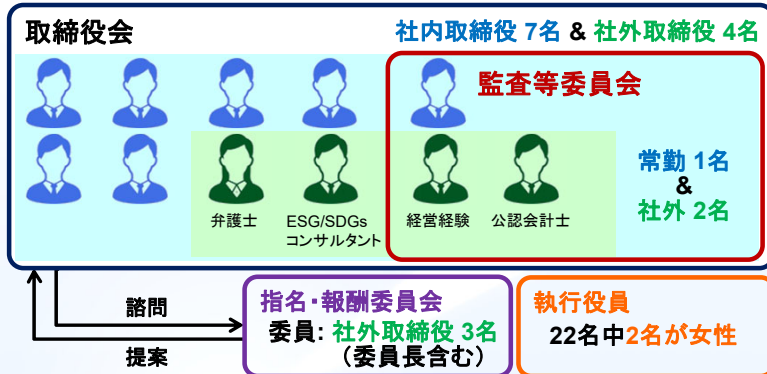
- 女性管理職比率:8.6%
- 男性育休取得率:38.9%

<目標>

- 2026年4月まで
女性管理職比率:12%以上
女性取締役・執行役員:4名以上
- 2030年6月末まで
女性役員比率:30%以上
- 2025年度まで
男性育休取得率:30%以上



※単体ベース



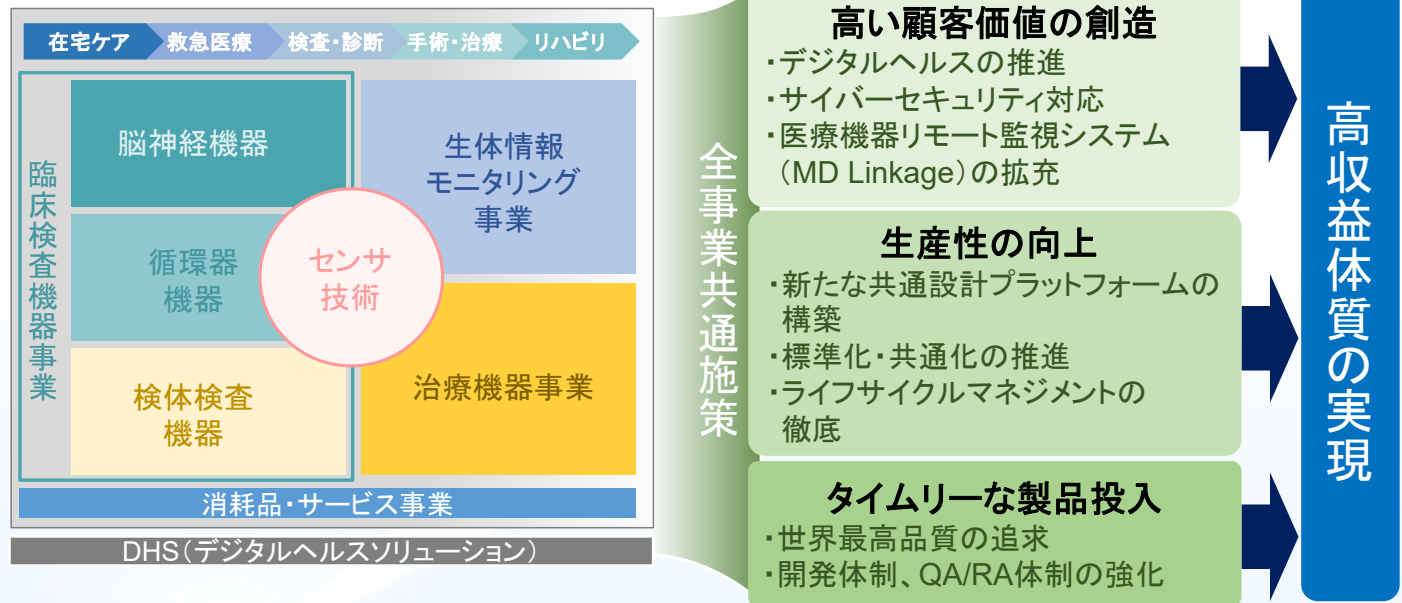
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

24

- 経営の視点では、コーポレート・ガバナンスの強化に向けて、取締役会における多様性の確保に取り組んでおり、独立社外取締役の割合は、本年6月の株主総会をもって36%となりました。
- 株主の皆様との一層の価値共有を図るため、現在、役員報酬制度の見直しを進めています。
- ダイバーシティ&インクルージョンの観点からは、女性取締役1名、女性執行役員2名を登用しています。
- 全ての社員の多様性を尊重し、社員一人ひとりの能力を最大限発揮できるよう、女性管理職の育成や男性社員の育児休暇取得の支援などの働き方改革を進めます。

既存事業における収益性の改善



- 事業の視点では、既存事業における収益性の改善に向けて、高い顧客価値の創造、生産性の向上、タイムリーな製品投入に取り組み、高収益体質の実現を目指します。
- デジタルヘルスの推進、サイバーセキュリティへの対応、共通設計プラットフォームの構築、ライフサイクルマネジメントの徹底、グローバルな開発・品質管理体制、規制対応力の強化は、全事業に共通する重要施策です。

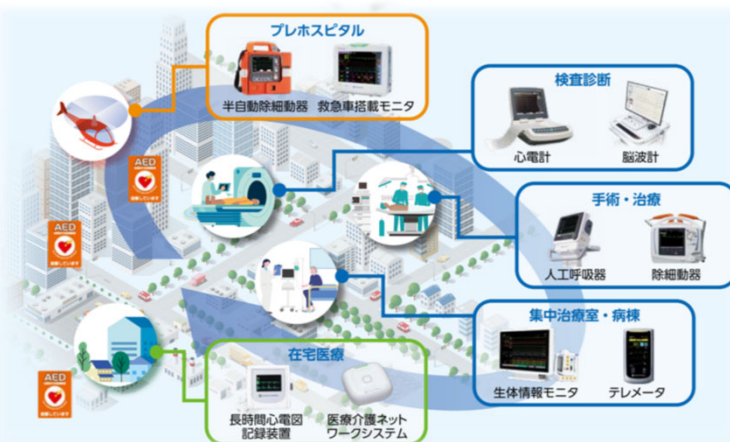
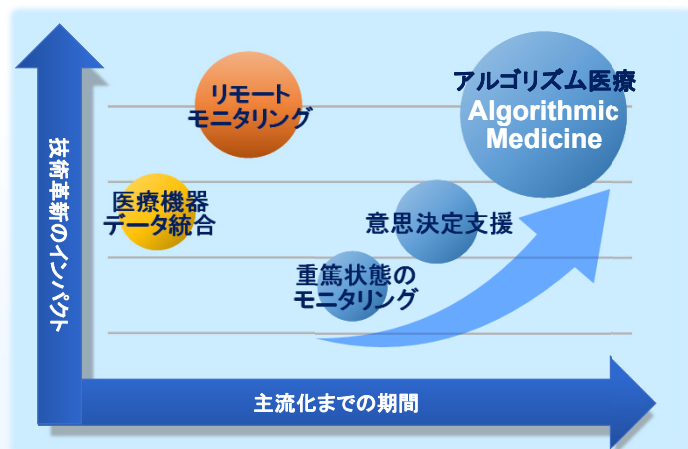
DHS(デジタルヘルスソリューション)構想の推進

- ✓ 「急性期DHS構想」と「地域医療DHS構想」の2つの領域で、医療課題の解決に向けた顧客価値の創出を検討

急性期DHS構想



地域医療DHS構想



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

26

- 2030年の長期ビジョン実現に向けたDHS構想では、現在、急性期と地域医療の2つの領域で、医療課題の解決に向けた顧客価値の創出を目指しています。
- 急性期DHS構想では、当社のコア技術であるHuman Machine Interface技術をもとに、患者さんの生体情報や医療機器の情報を活用したアプリケーションやサービスを提供します。
- 地域医療DHS構想では、地域の病院や診療所をつなぐ医療ネットワークの情報基盤を提供することで、地域医療の抱える様々な医療課題の解決を目指します。

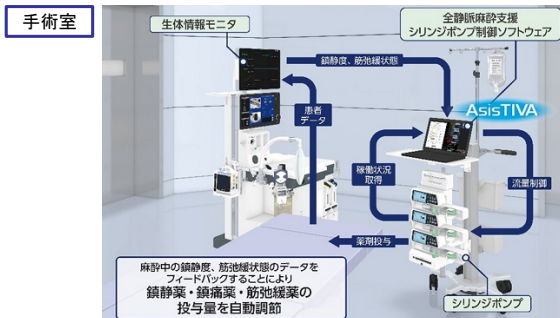
DHS(デジタルヘルスソリューション)構想の推進

急性期DHS構想

全静脈麻酔支援シリンジポンプ制御ソフトウェア ROP-1680 AsisTIVA

アシスディヴィア

2023年度上期国内発売



- 適正使用指針に基づき、**トレーニングコース開催**
- 複数施設で採用決定**

医療従事者の
業務負荷軽減

医療インシデント
の低減

患者アウトカム
の向上

地域医療DHS構想

遠隔脳波判読のPoCを開始

※PoC(Proof of Concept): 概念実証

- EEGヘッドセットと脳波計により、**救急領域において迅速に脳波測定**

ER/ICU

EEG
ヘッドセット

脳波計

- アルム社のJoin EEGを使って**脳波を遠隔判読**、**結果を速やかに報告**

Join EEG

脳波判読医

治療介入
の迅速化

患者アウトカム
の向上

NIHON KOHDEN

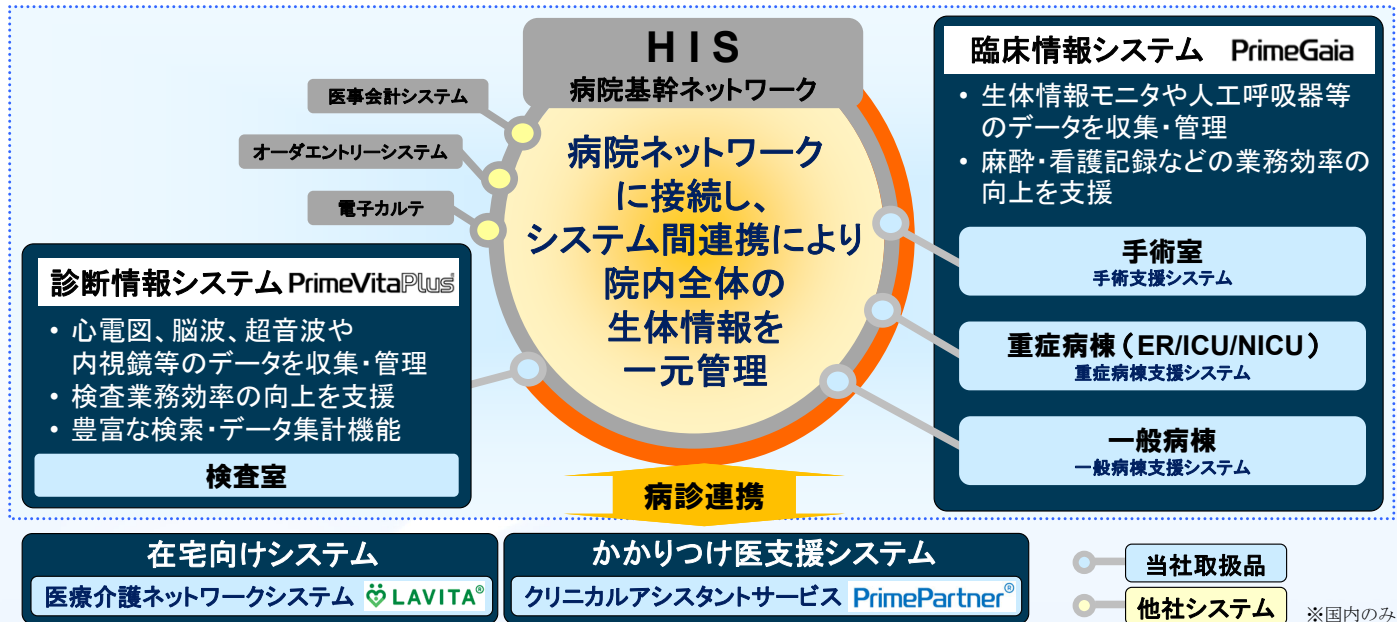
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- 急性期DHS構想の一環として、上期に発売したAsisTIVAは、バイタルデータを活用して麻酔薬の自動調節を行うソフトウェアです。トレーニングコースの提供を開始しており、複数施設で採用が決定しています。本ソフトウェアを使用することにより、麻酔科医の業務負荷を軽減し、手術中の医療安全に貢献することを期待しています。
- 地域医療DHS構想の一環としては、ERやICUにおける遠隔脳波判読サービスの検証を開始しました。当社のEEGヘッドセットで測定した脳波をアルム社のJoin EEGに共有し、専門医が遠隔で脳波判読することで、迅速な治療介入や患者アウトカムの向上を目指します。

ITソリューション事業

✓ 医療従事者の業務負荷軽減、医療経済性の向上に貢献



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

28

- DHS構想の柱となるITソリューション事業について、ご説明します。
- 当社では、検査室において、生体計測機器で測定した検査データを管理する診断情報システム、そして、手術室やICU、一般病棟において、生体情報モニタや人工呼吸器等から得られるバイタルサインデータを管理する臨床情報システムを提供しています。
- これらのITシステムを活用することで、医療従事者の業務負荷軽減、業務効率や診療実績の向上、さらに医療経済性の改善につながる顧客価値提案を推進します。

ITソリューション事業

✓ 臨床情報システム PrimeGaia に、高付加価値の機能を相次いで追加 NEW!

視認性・操作性を向上

2022年度Ver.04-01発売



- ・ 表示内容を刷新
- ・ 直感的な操作・入力を実現

新DWHシステム Finedata Plus を搭載

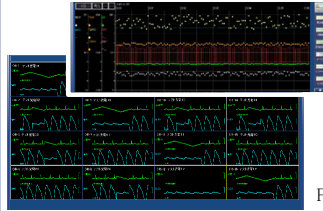
2022年度発売



- ・ 生体情報・記録情報の集計データで、病院における研究・業務を支援

一般病棟向けに年額利用料制を開始

2023年度上期発売

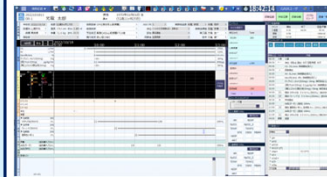


- ・ 保守を含む年額利用料制の新パッケージを追加
- ・ 初期費用を抑えて導入可能

PRM-7100 病棟パッケージ

AsisTIVA と連携を開始

2023年度上期対応開始



- ・ AsisTIVAで麻酔薬の投与を開始すると、投与量を自動表示

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

29

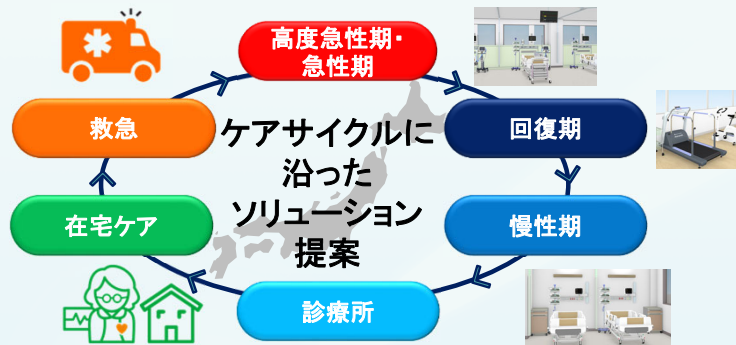
- 臨床情報システム PrimeGaiaでは、高付加価値を生み出す新機能を相次いで投入しました。最新のVer.4ではユーザインターフェースを刷新し、直感的な操作性や視認性の良さに、高い評価をいただいています。
- データウェアハウス機能であるFinedata Plusでは、臨床現場で取得したデータの二次利用が可能となり、研究支援、業務支援に活用されています。
- 一般病棟向けPRM-7100では、新たに保守サービスを含む年額利用料制の提供を開始し、初期費用を抑えた導入が可能となりました。
- AsisTIVAとPrimeGaiaの連携も実現し、周術期管理における業務効率の改善につながります。

グローバル事業における戦略強化

日本：医療の質向上、医療課題の解決に向けたソリューション提案を強化

✓ 顧客価値提案の強化

医療安全 診療実績 業務効率 につながる
提案営業力の強化、サービスの拡充



✓ 医師の働き方改革や医療情報のデジタル化に資するソリューションの提供

PrimeGaia
臨床情報システム

モバイルビューワー
ViTrac

PrimeVitaPlus[®]
診断情報システム

NEW!
AsisTIVA
全静脈麻酔支援シリンジ
ポンプ制御ソフトウェア
ROP-1680
2023年度上期発売

NEW!
バイタルサイン
統合指標ソフトウェア
Visensia
2022年度発売

✓ 製品ラインアップの拡充

NEW!
医用テレメータ
WEP-1600
2023年度上期発売

NEW!
自動心臓
マッサージ装置
2023年度下期発売予定

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

30

- 日本では、引き続き、顧客価値提案を軸とした変革を推進します。
営業とサービスが一体となり、医療安全、診療実績、業務効率につながるソリューション提案力の一層の向上を図ります。
- 医師の働き方改革や医療情報のデジタル化が進められる中、ITシステム製品や各種アプリケーションを活用したソリューションの提供に注力します。
- 新製品としては、AsisTIVAと医用テレメータの新機種を上期に発売し、自動心臓マッサージ装置を下期に予定しています。

米国：子会社7社の統合と融合による米国事業のさらなる成長

✓ 製品ラインアップの拡充

生体情報モニタ



NEW!
中位機種ベッドサイドモニタセントラルモニタ
CSM-1500/1700シリーズ CNS-2101
2022年度発売 2023年度下期発売予定

生体情報モニタ
市場シェア目標
12%

脳神経機器



脳神経機器

NEW!
在宅睡眠記録装置
NomadAir
2023年度上期発売

救急蘇生機器

NEW!
自動心臓
マッサージ装置
ARM XR ACC
2023年度上期発売

人工呼吸器

NEW!
NKV-330
米国生産
2022年度発売

2022年度4Q
GPO※2の
プレミア社と契約締結
2023年度1Q
会員約4,400病院に
販売開始

中位機種
NKV-440
2023年度下期
米国発売予定

✓ 米国子会社を再編、持株会社体制へ移行 (2023年4月)

ガバナンス・
事業基盤の強化

子会社間の
シナジー創出



※1 2024年1月に社名変更予定。 ※2 GPO: Group Purchase Organization グループ購買組織。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

31

- 米国では、本年4月に子会社7社を再編しました。
来年1月には、持株会社の名称を日本光電ノースアメリカに変更する予定です。
- 新製品としては、上期に、在宅向けの睡眠記録装置、自動心臓マッサージ装置の新機種を投入しました。下期には、セントラルモニタの新機種、人工呼吸器の中位機種を発売予定です。
- マスク型人工呼吸器については、受注が好調に推移しており、納品・トレーニング・保守体制の強化を進めています。
- 生体情報モニタについては、受注から売上までのサイクルが延びていることから、プロジェクトマネジメント体制を強化し、納品・設置・稼働プロセスの短縮に注力します。

新興国：日本・米国製、上海製の新製品の提案を強化



- 新興国では、ハイエンド市場には日本・米国製品、ミドル・ローエンド市場には上海製品の販売展開を強化します。
- ハイエンド市場向けには、日本医療研究開発機構(AMED)の支援を受けて開発・製品化した新生児蘇生モニタをインドネシアに投入します。サステナビリティ推進の一環として、新興国における新生児の死亡率や重篤な後遺症の低減を目指します。
- ミドル・ローエンド市場向けには、上海光電で開発した普及タイプのベッドサイドモニタを予定しています。当社独自のesCCOやiNIBPなどのパラメータで差別化を図ります。
- 東南アジア市場では、ベトナムに販売子会社を設立するほか、インドネシアにおいて現地生産を予定しています。

グローバルSCMの構築・ コーポレート主要機能の強化

グローバルSCMの構築

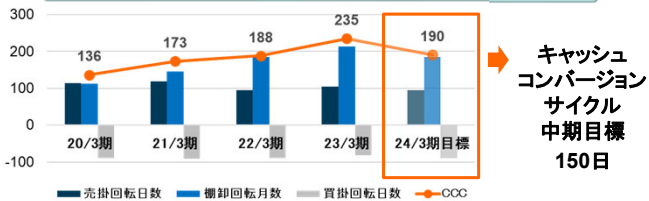
✓PLM/MES※システム導入を推進

技術・生産部門のDX化による
業務負荷・コスト削減

※PLM(Product Life-cycle Management):製品ライフサイクル管理、
MES(Manufacturing Execution System):製造実行システム。

✓在庫の適正化を推進

製品・部品在庫の適正水準を見直し



コーポレート主要機能の強化

✓グループ全体の最新情報を集約する経営管理システムを整備

グローバルで導入した
基幹システム・グループウェアを活用

✓製品のライフサイクル全体で、最新の法規制への対応を強化

医療機器のサイバーセキュリティ確保に
向けた体制整備

市販後モニタリング体制強化

- 組織の視点では、グローバル・サプライチェーン・マネジメント体制の構築とコーポレートの主要機能の強化により、グローバルな成長を支える基盤の構築を推進しています。
- PLM/MESシステムの導入を進め、技術・生産部門における業務効率や生産性の向上を目指します。
- 在庫の適正化に向けては、製品および部品在庫の適正水準を見直し、キャッシュ・コンバージョン・サイクルの短縮に取り組みます。
- コーポレートの主要機能の強化については、グループ全社の最新情報を集約する経営管理システムを整備しています。
- 法規制対応に関しては、医療機器のサイバーセキュリティ確保に向けた体制整備を進めています。

2024/3 経営目標値

1米ドル102円・1ユーロ124円

2024/3 修正予想

1米ドル139円・1ユーロ=151円

4カ年
CAGR

+4.6%

【海外地域別売上高】

売上高	1,970億円
国内売上高	1,340億円
海外売上高 (海外売上高比率)	630億円 (32.0%)
消耗品・サービス売上高比率	48%以上
売上総利益率	50%以上
営業利益 (営業利益率)	200億円 (10.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	138億円
ROE	10%

2,215億円	+4.6%
1,420億円	+1.4%
795億円 (35.9%)	+11.9%
47.9%	
50.8%	
222億円 (10.0%)	+9.4%
155億円	

	2024/3 経営 目標値	2024/3 修正 予想	4カ年 CAGR
米州	320	434	+15.1%
欧州	100	126	+8.6%
アジア州他	210	235	+12.1%

- 2024年3月期の経営目標値、修正予想は、ご覧のとおりです。

利益配分の基本方針

利益配分の優先順位は、①将来の企業成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得

①将来の企業成長 に向けた投資

- ・ **デジタルヘルスソリューション**を新規事業と位置付けて積極投資
- ・ **コーポレートDX推進、グローバルSCM構築**のための設備投資

研究
開発



設備
投資



M&A
提携



人財
育成



②配当

長期安定配当を
継続

目標:連結配当性向
30%以上

年間配当金
23/3期:61円 (配当性向 30.0%)
24/3期:61円 (配当性向 33.1%)

③自己株式取得

今後の事業展開、投資計画、
内部留保の水準、株価の推移等を
総合的に考慮し、機動的に検討

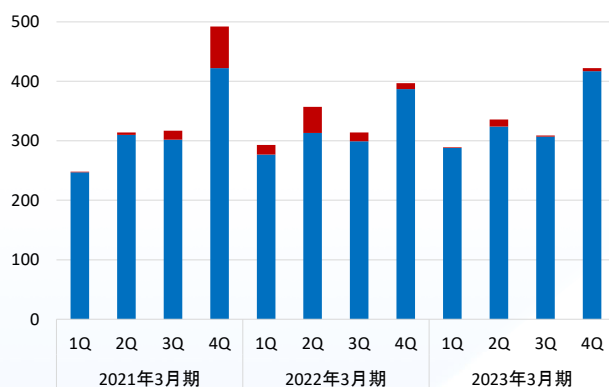
自己株式保有:
408万株
(持株比率:4.6%)

- 利益の配分につきましては、将来の企業成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期に亘って安定的な配当を継続することを基本方針としています。優先順位は、研究開発や設備投資、M&Aや提携、人財育成などの、将来の企業成長に向けた投資、配当、自己株式取得としています。配当については、連結配当性向30%以上を目標としています。
- 当期の年間配当金は61円、配当性向は33%の予想です。

[参考] COVID-19関連需要(概算)

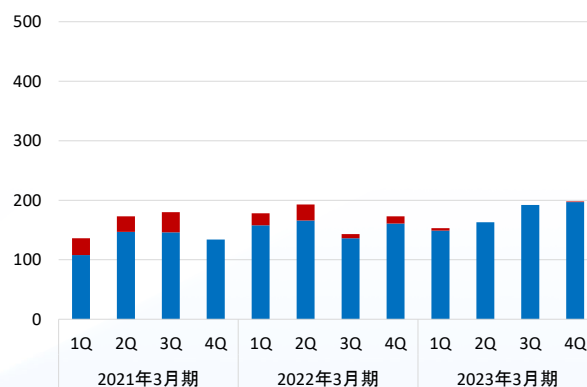
【国内売上高】

(単位:億円)



【海外売上高】

■ COVID-19関連
■ COVID-19関連以外



COVID-19関連需要 (通期)	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期	
	国内	海外	国内	海外	国内	海外
生体情報モニタ	40億円程度	45億円程度	60億円程度	35億円程度	15億円程度	3億円程度
人工呼吸器	50億円程度	40億円程度	25億円程度	15億円程度	5億円程度	1億円程度
除細動器	—	5億円程度	—	10億円程度	—	1億円程度
合計	90億円程度	90億円程度	85億円程度	60億円程度	20億円程度	5億円程度

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】TEL03-5996-8003